

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合演習 I		長井 安代 学内教員		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
演習	1 (30)	教室 看護実習室	後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	事例の対象に対し、複数の看護ケアを優先順位や各年齢を考慮し、患者の状態、状況にあった援助計画の立案、演習を実施する。				
到達目標	これまでの学習の中で修得した、各看護学で学んだ知識、技術を統合し、対象の状態に応じた看護を原則に基づいて正確に実践する能力を養う目的とする。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	事例の提示 小児、老年、成人の計 3 事例
2	GW: プレゼンテーション資料作成①事例の発達段階、病態生理、症状、検査、治療、看護 ②関連図 ③援助計画 事例 1 小児: 3 歳 男児 気管支喘息 吸入・シーネ固定の交換実施 事例 2 老年: 85 歳 女性 右被殻出血後遺症 (左片麻痺・構音障害・嚥下機能障害) 誤嚥性肺炎・MRSA ガウンテクニック 口腔ケア 口腔内・鼻腔内吸引、気管内吸引を実施 事例 3 成人 I: 52 歳 男性 (女性) 心不全 酸素投与・膀胱留置カテーテル挿入・心電図モニター装着
3・4	各グループ、立案した計画書をもとに技術練習をしながら計画書を作成する。
5・6・7	立案した計画書をもとに、事例の技術について 演習発表と検討会 各グループから発表者 1 名 制限時間 30 分内
8・9	技術練習 他グループが作成した計画書をもとに実施する。
10・11・12	チェックリストに沿って、3 事例を練習する。
13・14・15	技術試験 3 事例のうち 1 事例を実施
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I、II 医学書院 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	技術試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合演習Ⅱ		池田 恵子 学内教員		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	ステップⅠ．医療安全に基づいた援助：ヒューマンエラーと医療過誤 ステップⅡ．複数患者受け持ち多重課題に対し援助計画の立案・実施				
到達目標	これまでの学習の中で修得した看護技術を統合し、各看護学で学んだ内容を臨床で実際に活用していくことができるよう臨床実践能力の強化。 複数受け持ち、多重課題、割り込み状況への対処を学ぶ				
事前学習	医療安全・周手術期看護・採血・腰椎圧迫骨折患者の看護、運動麻痺の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	【オリエンテーション】統合演習Ⅱの目的と授業の進め方について ステップⅠ：医療安全、ヒューマンエラー、医療過誤
2・3	ミニストーリー（ヒヤリ・ハット事例）についてグループワーク 医療事故防止啓発ポスター作成・発表・ディスカッション
4	講義：診療の補助に関わる事故：与薬・注射の事故 輸液ポンプ・輸注ポンプによる事故
5・6	転倒事故についてのグループワーク・ロールプレイ
7	講義・演習：医療者間のコミュニケーション（チームの鎖・SBAR）
8・9	ステップⅡ：複数受け持ちでの援助計画立案 病態や優先順位をふまえた臨床判断
10・11 12・13	複数受け持ちによる援助の実際（演習）×4回 ※14名の患者の援助を9人の看護師役とリーダー役が行う そのほかの学生は別室で映像を観察、演習終了後全体でリフレクション
14	事例の振り返り・レポート提出
15	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研 医療安全ワークブック 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
リフレクション I		林 なおみ 学内教員		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室・実習室	後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	領域別実習 I・II の経験のリフレクションと発表				
到達目標	1 リフレクションの意義が理解できる。 2 リフレクション学習を行うときのリフレクター、ファシリテーターの役割ができる。 3 リフレクションシートを活用して客観的に自己を振り返ることができる。 4 リフレクションにより新たな自己への気づきができる。 5 リフレクションで得られたことをグループまたはクラス内で共有できる。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	講義「リフレクションとは、看護師にとっての意義」 「リフレクション学習」
2・3	領域別実習 I について GW：リフレクション演習①「看護実践経験を語る」 リフレクション演習②「語りからの気づきを記述する」
4	講義「リフレクションにおける分析・統合」
5・6	リフレクション演習③「実践行為の分析と統合」
7・8	全体発表・質疑応答・まとめ
9・10	領域別実習 II について GW：リフレクション演習①「看護実践経験を語る」 リフレクション演習②「語りからの気づきを記述する」
11・12・13	GW：リフレクション演習③「実践行為の分析と統合」
14・15	全体発表・質疑応答・まとめ
履修上の要件	領域別実習 I・II を履修していること
テキスト、教材、 参考書	
成績評価の方法	ルーブリック評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
リフレクションⅡ		林 なおみ 学内教員		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	領域別実習Ⅲ～Ⅸ・統合実習のリフレクションを行う。				
到達目標	1 領域別実習・統合実習のリフレクションができる 2 グループ・クラス内で共有できる。 3 臨床判断力の課題を明確にできる。 4 自己の経験の価値づけと自己の課題の明確化ができる。 5 看護と介護の役割に対する理解を深め、他職種の価値観を理解できる。 6 看護と介護職との連携について考える。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	講義「多職種連携について」
2～6	領域別実習Ⅲ～Ⅴについて リフレクション演習①「看護実践経験を語る」 リフレクション演習②「語りからの気づきを記述する」 リフレクション演習③「実践行為の分析と統合」 全体発表・質疑応答
7～11	領域別実習Ⅵ～Ⅸ・統合実習について リフレクション演習①「看護実践経験を語る」 リフレクション演習②「語りからの気づきを記述する」 リフレクション演習③「実践行為の分析と統合」 全体発表・質疑応答
12～15	多職種連携について こども介護福祉学科の3年生と事例検討を行う。 事例検討した内容と学びの発表・質疑応答
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	
成績評価の方法	ルーブリック評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護管理		寺師 敬子 中島 久代		3年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	目標管理、ケアのマネジメント、情報管理、日本の医療制度、医療安全 グローバルヘルス、国際保健の指標、国際協力、プライマリーヘルスケア 災害医療、災害看護、被災者特性に応じた看護、心のケア、災害訓練				
到達目標	システムの中で、組織の中で、自分の仕事の機能を考え、全体とその中の 個として問題解決ができ、看護の質をあげていくことができる。 国際的視野を持つ（世界の健康の不平等、国境を超えて健康を守る） 災害各期の看護活動を理解できる。				
事前学習	テキストを読んでおく				

授業計画

No.	授 業 内 容	
1	看護の提供のしくみ 組織の成り立ち 看護をめぐる制度と政策	寺 師
2・3	業務遂行（ケア）のマネジメント、目標管理 情報共有の仕組み	
4・5	日本の医療制度と病院経営、医療におけるサービスの構造	
6	グローバル化と看護、国際保健	
7	グローバルヘルス、国際保健の指標	
8	ジェンダーギャップ、国際協力	
9	国際労働と看護師不足（外国人看護師問題）	
10	1. 災害医療の基礎知識：災害の種類、災害サイクル 2. 災害看護サイクルに応じた災害看護：急性期・亜急性期	中 島
11	災害サイクルに応じた災害看護：亜急性期～慢性期・復興期 避難所における被災者の生活	
12	3. 被災者特性に応じた災害看護：要配慮者・避難行動要支援者とは 4. 災害とこころのケア	
13・14	大規模災害訓練	
15	終講試験	
履修上の要件		
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 統合分野Ⅰ 看護管理 医学書院	
成績評価の方法	筆記試験	
備考		